

二〇一八（平成三〇）年度

昭和文学会 第六三回研究集会

会場 法政大学 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S407・S505教室

〒一〇二一八一六〇 東京都千代田区富士見二一七一一

（連絡先 電：〇三―三二六四―九三二五）

日時 二月八日（土） 一三時より

【研究発表】

第一会場（S407教室）

〈癸〉という場所から

——泉鏡花「甲乙」におけるトラウマと喪——

今藤 晃裕（日本女子大学附属高等学校）

昭和初期における夏目漱石「坊つちやん」の劇化について

——二代目市川猿之助による初演を中心として——

赤井 紀美（東京文化財研究所客員研究員）

「再起奉公」を読む

——「美談」形式における傷痕軍人表象を中心に——

市川 遥（名古屋大学大学院）

小林秀雄『歴史と文学』

——死を造形する方法——

伊中 悦子（國學院大学大学院特別研究生）

“墮ちる”ことの意味

——平林たい子「墮ちた人」論——

渡部 裕太（立教大学大学院）

〈先祖〉表象における葛藤と困難

——横光利一「旅愁」、柳田国男「先祖の話」、火野葦平「天皇組合」を中心に——

大川 武司（会社員）

（司会 安藤優一・木下幸太・藤田佑）

第二会場 (S505教室)

解放と抑圧

——開高健「裸の王様」の「ぼく」と北川民次——

山田 宗史 (早稲田大学大学院)

安部公房「壁」——S・カルマ氏の犯罪」論

——「新ノアの洪水」が象徴する意味について——

顧 琦淵 (関西大学大学院)

〈男らしさ〉からの疎外

——安部公房『砂の女』——

片野 智子 (学習院大学大学院)

「箱」の中のオナニズム

——安部公房『箱男』試論——

河田 綾 (立教大学大学院)

〈創作〉を装う自己演出

——澁澤龍彦「避雷針屋」——

細沼 祐介 (法政大学大学院)

中上健次の「路地」再考

——創造・解体・偏在——

鈴木 華織 (法政大学大学院)

(司会 泉溪春・関口雄士・吉野泰平)

※各発表の要旨は昭和文学会ホームページ (<http://swbg.org/wjp/>) に掲載し、当日来場の皆様に配布いたします。

※懇親会は、ポアソナード・タワー一階食堂にて予定しております。
予約は不要、当日受付にてお申し込み下さい。

法政大学

アクセスマップ

【JR線】

総武線 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩一〇分

都営新宿線 市ヶ谷駅下車徒歩一〇分

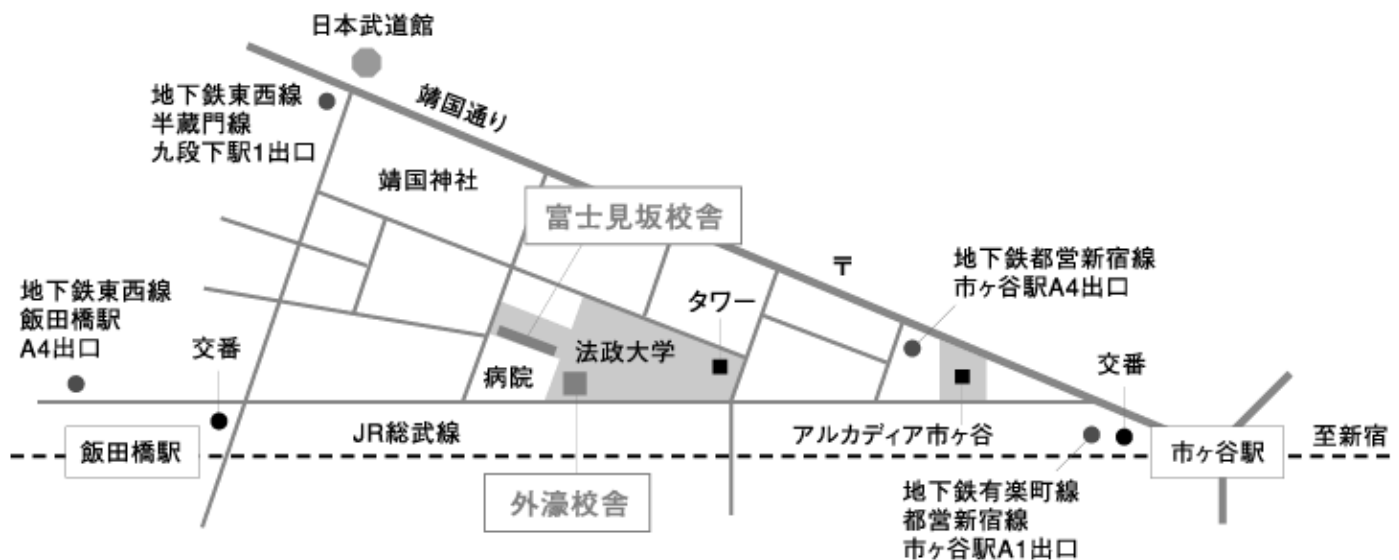
東京メトロ有楽町線 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩一〇分

東京メトロ東西線 飯田橋駅下車徒歩一〇分

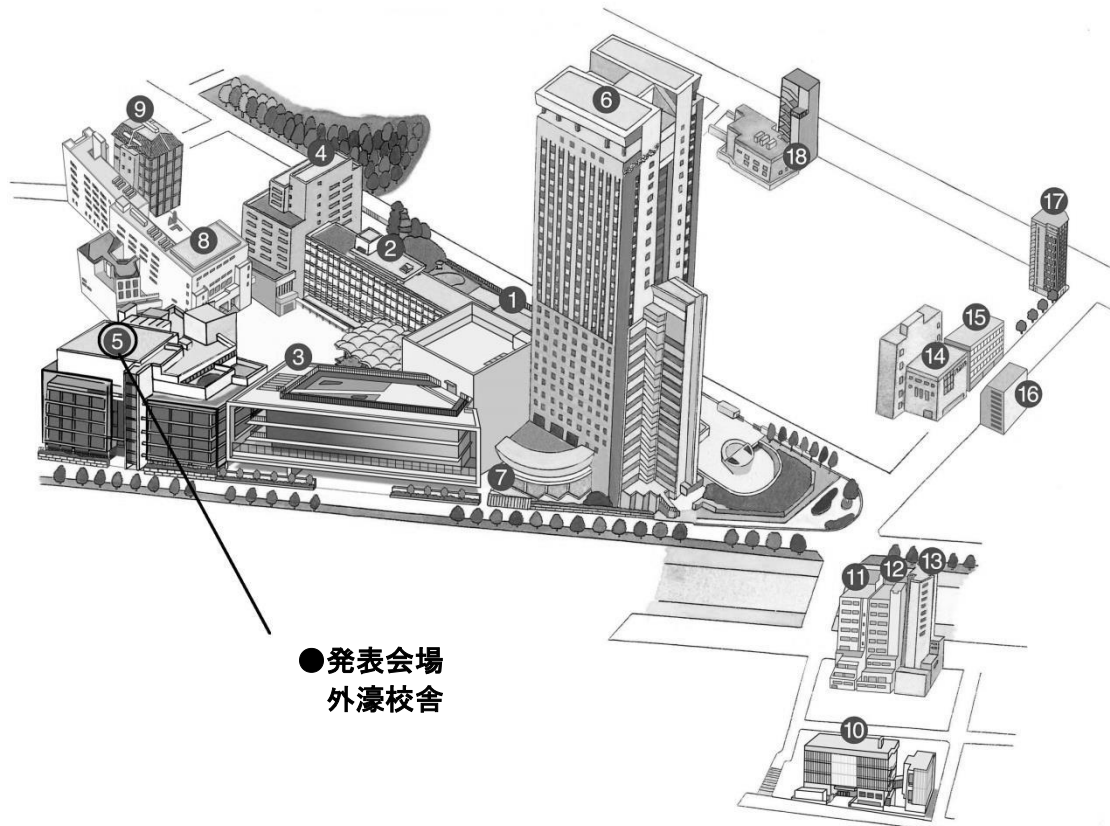
東京メトロ南北線 市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩一〇分

都営大江戸線 飯田橋駅下車徒歩一〇分

大学周辺図



大学構内図



※発表会場は、外濠校舎
S407・S505教室です。